

平成29年度 テーマ別環境学習講座（第3回） 実施報告

「スポGOMI大会 in 荒川～川ごみ拾いで、海を、そして地球を守ろう～」

平成29年12月

公益財団法人 東京都環境公社

「スポGOM I 大会 in 荒川～川ごみ拾いで、海を、そして地球を守ろう～」

□実施日 平成29年12月9日（土）

□受講者数 定員100名 受講申込者 104名 当日出席者 109名

□実施内容

○挨拶等

- ・事務局から受講上の注意、資料確認、全体スケジュール等
- ・東京都環境局総務部環境政策課自治体連携推進担当課長より開講挨拶及び本講座の目的等について



（主催者挨拶）

○第一部 講義 10時05分～10時45分

【講義】

「海ごみ」を知っていますか？

（講師）東海大学海洋学部博物館 学芸員 伊藤 芳英 氏

（講義内容概略）

◆駿河湾の地形から見る海洋の流れ

- ・日本一深い深海湾であり、富士山をはじめ、伊豆半島、南アルプスなど豊かな自然に囲まれている。この地形により海流が生まれ、深海生物が海岸に漂着する。

◆海岸の様々な漂着物

- ・海岸の漂着物を調査すると、海洋の自然から生まれたもの、陸地の自然から生まれたもの、人が作りごみとなったものに仕分けすることができる。

◆深海生物ミズウオの調査研究

- ・ミズウオも海岸へ漂着する生物の一つで、水深 300～1000m に生息する獰猛な魚である。毎年 12 月頃から漂着が始まり、2～3 月をピークに翌年 5 月までみられる。
- ・1964 年から半世紀に亘る久保田正氏の調査結果によると、プラスチック片などのごみが、ミズウオの胃内容物から出現する割合は、およそ 70%。

◆ミズウオの胃内容物からみる海ごみ問題

- ・ミズウオを解剖すると胃が袋状で、胃の入り口のすぐ横が腸管の入り口という極めて単純な構造をしている。
- ・黒い胃からは、レジ袋、プラスチック片、ビニール片などが出現した。

◆まとめ

- ・ミズウオの調査結果から、海底にもプラスチックやビニールのごみがあることが分かる。海洋の自然を大切にするために自分の生活を振り返り、自分にできることを考えてみてほしい。



（伊藤氏による講義）



（会場内の様子）

○第二部 スポGOMI大会 in 荒川 10時45分～13時00分

◆開会式

（講師）一般社団法人ソーシャルスポーツイニシアチブ 代表理事 馬見塚 健一 氏
（内容概略）

- ・ スポGOMIの取組、ルール説明など



（馬見塚氏によるルール説明）



（選手宣誓）

◆競技開始

競技エリアを足立区街中と荒川河川敷の安全なエリアに限定し、競技を実施。



（スタート発声「ごみ拾いはスポーツだ！」）



（荒川河川敷でごみ拾い）



（街中でごみ拾い）



（ごみの計量）

◆荒川河川敷見学

（講師）NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム 五十嵐 実 氏
（内容概略）荒川河川敷の葦を伐採したエリア内を解説を交えて見学。



（五十嵐氏による川ごみの説明）



（荒川河川敷のごみの様子）

◆閉会式・結果発表・表彰式



（閉会式）



（結果発表・表彰式）



（集まったごみ）



（全体集合写真）

今回は、足立区や地元関係者のご協力の下、29 チーム 109 名の子どもから大人まで、多くの方々に参加していただきました。当日集まったごみは、なんと 100kg!!

当日ご参加いただきましたみなさま、どうもありがとうございました。